

令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添	なし
----	----

応募概要	分野	演劇	種目	演劇
	応募区分	特別エリア区分		
	複数応募の有無	有	応募総企画数	2企画
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※	複数の企画を実施可能		

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要

ふりがな	ゆうげんがいしゃしょーまんしゅぷ		
制作団体名	有限会社ショーマンシップ		
代表者職・氏名	代表取締役・仲谷一志		団体ウェブサイトURL
			https://www.showman.jp/
制作団体所在地	〒	810-0063	最寄駅(バス停)
	福岡市地下鉄・唐人町駅		
福岡県福岡市中央区唐人町1-10-1カランドパーク203			
制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック	<input type="checkbox"/> ※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です		
ふりがな	げきだんしょーまんしゅぷ		
公演団体名	劇団ショーマンシップ		
代表者職・氏名	座長・仲谷一志		団体ウェブサイトURL
			https://www.showman.jp/
公演団体所在地	〒	810-0063	最寄駅(バス停)
	福岡市地下鉄・唐人町駅		
福岡県福岡市中央区唐人町1-10-1カランドパーク203			
制作団体 設立年月	1994年10月		
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等
	代表取締役 仲谷一志 取締役 市岡洋・生田晃二 企画制作部長 宮崎果林		役員:3名 制作スタッフ5名 役者15名 【加入条件】毎年オーディションを行い、劇団理念に適合する優秀な人材のみ加入可能。
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者 を置く	本事業担当者名	宮崎果林
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	田村真理
本応募にかかる連絡先	メールアドレス		電話番号
	info@showman.jp		0927163175






制作団体の実績	制作団体沿革・主な受賞歴	<p>平成 6年10月 「劇団ショーマンシップ」設立。</p> <p>平成11年 2月 「有限会社ショーマンシップ」として法人化。</p> <p>平成12年 4月 「唐人町商店街(福岡市中央区)」に拠点を移し「甘棠館Show劇場(客席84席)」の運営を始める。</p> <p>平成16年 4月 「日本児童・青少年演劇劇団協同組合」に加盟。</p> <p>平成21年 4月 「ユメニティのおがた(福岡県直方市)」とレジデンスカンパニー契約を結ぶ。</p> <p>毎年、劇場公演・直方市内の小学校でのアウトリーチ事業を始める。(継続中)</p> <p>平成26年12月 創立20周年記念公演「亀井南冥伝～金印の謎を生んだ男～」を博多座にて公演。</p> <p>令和元年 12月 創立25周年記念公演「THE NIWAKA～博多の町の芸処～」を博多座にて公演。</p> <p>令和 2年 2月 「ないた赤おに」の脚本を日本語と英語で織り交ぜた作品「The Red MonsterCried」を甘棠館Show劇場にて公演。</p> <p>令和 2年 3月 「福岡市民文化活動功労賞」受賞。</p> <p>令和 3年 4月 「あしや夢リアホール(遠賀郡芦屋町)」の運営を芦屋町より委託される。</p> <p>令和 4年 2月 「ないた赤おに」を完全英語版とした「The Red Monster Cried」を甘棠館Show劇場にて公演。</p> <p>令和 6年 3月 「福岡県文化賞」受賞。</p> <p>令和 6年12月 創立30周年記念公演「やっばり利兵衛～せいもん払いを始めた男、八尋利兵衛伝～」を博多座にて公演。</p>	
	学校等における公演実績	<p>平成14年度より学校公演実績あり 累計 約800公演 (直近)</p> <p>「ないた赤おに」19校 「砂漠の王子の冒険」5校 「インプロショー」2校 計:41公演</p> <p>令和2年度「ノートルダム物語」1校 「ないた赤おに」6校 計:8公演</p> <p>「砂漠の王子の冒険」1校</p> <p>令和3年度「ノートルダム物語」14校 「生きろ! ～十五少年漂流記より～」5校 計:42公演</p> <p>「ないた赤おに」23校</p> <p>令和4年度「ノートルダム物語」20校 「生きろ! ～十五少年漂流記より～」6校 計:36公演</p> <p>「ないた赤おに」5校 「The Red Monster Cried」5校</p> <p>令和5年度「ノートルダム物語」20校 「生きろ! ～十五少年漂流記より～」2校</p> <p>「ないた赤おに」19校 「The Red Monster Cried」3校</p> <p>「砂漠の王子の冒険」20校 「大正くるま浪漫」2校 計:66公演</p> <p>令和6年度「ノートルダム物語」26校 「生きろ! ～十五少年漂流記より～」1校</p> <p>「ないた赤おに」33校 「砂漠の王子の冒険」4校</p> <p>「トマトくんのありがとう」5校 計:69公演</p>	
	特別支援学校等における公演実績	<p>平成18年度 「ないた赤おに」 福岡県立筑後特別支援学校</p> <p>平成19年度 「なりきりオウムとはりきりサーカス団」 福岡県立田主丸特別支援学校</p> <p>平成20年度 「なりきりオウムとはりきりサーカス団」 福岡県立川崎養護学校</p> <p>平成21年度 「ないた赤おに」 福岡県立小郡特別支援学校</p> <p>平成21年度 「ないた赤おに」 福岡県立特別支援学校「福岡高等学園」</p> <p>平成22年度 「笑劇! 黒田騒動」 特別支援学校「北九州高等学園」</p> <p>平成23年度 「ノートルダム物語」 大分県立宇佐支援学校</p> <p>平成24年度 「ノートルダム物語」 滋賀県立草津養護学校</p> <p>平成24年度 「ノートルダム物語」 三重県立聾学校</p> <p>平成26年度 「ないた赤おに」 福岡県立直方養護学校</p> <p>平成30年度 「ないた赤おに」 福岡県立小郡特別支援学校</p> <p>令和 元年度 「ないた赤おに」福岡県立南福岡特別支援学校</p> <p>令和4年度 「ないた赤おに」兵庫県立姫路しらさぎ特別支援学校</p> <p>令和5年度 「ないた赤おに」福岡市立福岡中央特別支援学校</p> <p>「ないた赤おに」鹿児島県立串木野特別支援学校</p>	
参考資料	申請する演目のWEB公開資料	有	
	※公開資料有の場合URL	https://www.youtube.com/watch?v=uuaXalMtmLY&t=481s	
	※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード	ID:	
		PW:	

別添	なし
----	----

【公演団体名 劇団ショーマンシップ 】

本公演・ワークショップの内容

対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	-
企画名	笑って！泣いて！心揺さぶる物語を子供たちへ「ないた赤おに」			
企画のねらい	道徳の教材としても馴染みのある「ないた赤おに」。本公演は原作のテーマをより子供たちに伝える事を念頭に置きながら、歌と踊りの演出を施し、舞台芸術が楽しいものであるという認識になることを狙い、『笑い』『涙』『感動』という舞台の魅力が満載している作品として制作した。その上で「鬼に生まれてきたが人間と仲間になって仲良く暮らしていきたい」という望みを持つ『赤おに』が「鬼は乱暴者である」という偏見差別から自由になれず、その願いをかなえるために友人の『青おに』を失ってしまった悲劇」という視点を丁寧に描いた。『なぜ青おにが赤おにの為に、悪者になって犠牲になり、赤おにの前から消えていかなければならなかったのか』という問題まで踏み込み「無意識の偏見・差別」が生んだ悲劇であることも子ども達に伝えることを狙いとしている。			
演目概要・演目選択理由	『日本のアンデルセン』と呼ばれた浜田廣介の「ないた赤おに」を原作に忠実に舞台化。原作の持つ言葉のリズムを活かし、オリジナルの歌とダンスにて演出。鬼の衣装や舞台装置など、視覚的な要素に芸術性を持たせ『友情』や『思いやり』というテーマと共に、将来子供たちが直面するであろう『社会矛盾』までも感じさせる本作品は上演後「教室」や「家庭」での「語らい」のテーマになり得る作品である。スピーディな転換で見せる舞台装置や『木こり役』のコメディシーン、主人公『赤おに』の心情を歌と踊りで表現するなど舞台芸術の魅力を詰め込んだ創りでありながらコンパクトに移動できる本作品は、本事業の目的である、すべての子供たちの豊かな感性を育み芸術鑑賞能力の向上につながり、文化的な地域格差の解消の促進に繋がることを確信している。			
児童・生徒の参加または体験の形態	【歌「お祭り気分」に参加】 赤おにが人間と仲良くなったシーン、物語の中で主人公「赤おに」が一番幸せを感じているシーンを歌と踊りで表現する「お祭り気分」を会場の子どもたち全員と役者が一体となり、唄・踊り・ボディーパーカッションで共演。体育館が喜びであふれる瞬間を共有する。 (ワークショップ・当日のオープニングアクトで指導)			
児童・生徒の参加可能人数	本公演		参加・体験人数目安	～300人
			鑑賞人数目安	～300人
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	■演目            ないた赤おに            《原作 浜田廣介》 ■脚色・演出    仲谷一志 ■音楽           山浦弘志 ■振付          近藤勇人  【あらすじ】 山の崖に住む「赤おに」は、村の人たちと仲良くなりたいと思っていました。ところが、人間たちは怖がって「赤おに」には近づいてきません。そこで「赤おに」は、『ココロノ ヤサシイ オニノウチデス。ドナタデモ オイデクダサイ。オイシイ オカシガ ゴザイマス、オチャモ ワカシテ ゴザイマス。』と立て札を立てました。それでも人間は「赤おに」がだましているのだと思い、近づいてきません。「赤おに」はとても悲しみその立て札を壊してしまいました。すると、ひょっこり友達「青おに」が遊びにやってきました。そして人間たちと仲良くなれる方法があると言うのですが・・・。			
出演者	公演時間    50    分			
	赤おに： 中村 豪志 青おに： 相川 満 語り： 岸 里美 与作： 進藤 祐行 喜作： 宝伊 謙斗			
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	脚色・演出 仲谷一志:日本児童・青少年演劇劇団協同組合 理事。日本演出者協会会員。劇団旗揚げ後、ほとんどの作品の制作に携わる。テレビ・ラジオの出演も多く、令和6年度は担当ラジオ番組が『ギャラクシー賞』『民放連盟賞』を受賞。 音楽 山浦弘志:数々のCM曲を手掛ける傍ら、舞台の音楽も手掛ける。児童劇団の音楽制作を25年以上手掛け、子供たちに音楽の素晴らしさを教えてきた。㈱NTTドコモ・九州国立博物館・北九州市等多数のPR動画の音楽も担当している。 エキスパートスタッフ 生田晃二:劇団座付き作家として、多くの作品を発表している傍ら、29年間の演劇活動で身に着けたスタッフワークは、「音響」「照明」「舞台」という枠を超えている。本作にエキスパートスタッフとして帯同し、音響・照明等のオペレーションを一人で行うことによって通常公演と同様に質の高い公演を行う事が出来る。			
本公演従事予定者数(1公演あたり) ※ドライバー等訪問する業者人数含む	出演者:    5    名 スタッフ:    1    名 合 計:    6    名		運搬	積載量:    2    t 車 長:    5.1    m 台 数:    1    台

本公演 会場設営の所要 時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込		無		前日仕込所要時間		時間程度	
	到着	仕込		上演	内休憩	撤去	退出	
	9:00	9:00～12:00		13:00～13:50	0	14:00～15:00	15時10分	
	※本公演時間の目安は、概ね2時限分程度です。							
本公演 実施可能日数 目安  ※実施可能時期につ いては、採択決定後 に再度確認します(大 幅な変更は認められ ません)。	6月		7月		8月		9月	
	12日		12日		0日		19日	
	10月		11月		12月		1月	
	16日		15日		0日		14日	
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。				計		88日	
公演に係るビジュ アルイメージ (舞台の規模や演出 がわかる写真)								
	体育館のステージにて舞台を組みます。 舞台設置に必要な面積 横:7.2m以上 奥行:3.6m以上 客席の真ん中に花道をつくります。							
								
	人間と仲良くなりたい「赤おに」。しかし人間たちは怖 がって逃げてしまいます。				友達の「青おに」に相談したところ、ある作戦を立て ることにしました。			
								
作戦は成功し、「赤おに」は人間たちと仲良くなるこ とが出来ました。				作戦の後、「青おに」に会いに行った「赤おに」。「青 おに」は手紙を置いて居なくなっていました。				
著作権、上演権等 の許諾状況	各種上演権、使用权等の許諾手続の要 否			該当あり		該当コンテンツ名		原作の著作権
	該当事項がある 場合	権利者名	日本文藝家協会		許諾確認状況		採択後手続き予定	

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。



別添

なし

【公演団体名

劇団ショーマンシップ

】

ワークショップの  
ねらい

ワークショップでは子供たちの好奇心を育み、コミュニケーション能力を高めることを目的とする。事前に各学校の状況をヒアリング、さらに当日も「子供たちの声」を聞きながら進行していく。プロの俳優による読み聞かせで、「言葉による表現の魅力」「日本語の魅力」に気付くきっかけを作り、感想を発表することで子供たちの表現力・想像力の向上を図る。複数の子供たちと一緒に踊ることは、コミュニケーション能力の育成に繋がる。「語り役」が、ワークショップのファシリテーターとしても『児童』と近い距離をとることで、より作品を身近に感じテーマが伝わりやすくなる。また、舞台セットの一部(パネル)に絵を描き、それを本番で使用することにより、子供たちは「創る楽しさ」を体験する。

児童・生徒の  
参加可能人数

ワークショップ

参加人数目安

～300人

## ワークショップの内容

ワークショップ  
実施形態及び内容

- ①『インプロゲームを使ったアイスブレイク』  
インプロゲームにて緊張感をほぐし、心のリラックスを図る。



- ②『歌とボディーパーカッションの指導』  
劇中、赤おにが村人と仲良くなったシーンにて踊る「お祭り気分」の振付を指導。本番では子供たちも一緒に踊る。(事前に学校に「お祭り気分」の音源を送付。)

- ③『出演俳優による、原作「泣いた赤おに」の一部を読み聞かせ』  
原作の紹介と浜田廣介の紹介  
その後、語り役による絵本の読み聞かせを行い、心に残ったシーンの発表。



- ④『作ってみよう！舞台セット！』  
黒板シートを貼った草木パネルに、②の「読み聞かせ」からイメージした「おに」の住む森の絵を描く。完成したパネルは、本番の舞台セットとして使用。

その他ワークショップに  
関する特記事項等

- ・参加児童が多い場合  
先生と話し合いの上、2回実施するなど、児童さんがのびのびと実施できるようにする。
- ・特別支援学校で実施する場合  
先生と綿密に打ち合わせを行い、内容を一部変更するなど、児童さんが負担に思うことなく実施できるようにする。

別添	なし
----	----

【公演団体名 劇団ショーマンシップ 】

記載方法等

例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。

- ・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかった。
- ・搬入車両が構内に入れず、搬入のための追加費用が生じてしまった。
- ・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまった。

上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。

任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。

詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただくことになります。

なお、特段条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。

会場条件	(必須)	公演実施にあたり、必要な会場条件を記載してください。					
	会場の設置階の制限	条件なし		主幹引き込み電源容量		40 A以上	
	舞台設置面積	間口	7 m		奥行	3.8 m	
		高さ	3 m				
	舞台設置場所	フロア対応	条件が合えば可		学校のステージでの対応	可	
	搬入間口の広さ	幅	1 m		高さ	1.8 m	
	遮光の要否	5割程度必要		緞帳の要否		有無のみ確認したい	
	ピアノの使用について	使用しない	ピアノを使用する場合の設置位置の指定		条件なし		
			ピアノを使用しない場合の移動の要否		条件なし		
	搬入車両(トラック等)の横づけ	応相談		トラック横づけ不可の場合の搬入対応可能距離		指定なし	m以内
	搬入車両の種類	中型トラック		台数	1 台		
	搬入車両の大きさ	車幅	2 m		車長	5.1 m	
備考							

※表から数値を取得しますので、セルの結合や行の挿入・削除は行わないでください(幅や高さの調整は問題ありません)。

学校からの情報	(任意)	学校からの提出を求める資料がある場合のみ記入してください。	
	会場図面の提出要否	要	
	その他提出が必要な資料 (搬入間口や搬入経路の写真の提出等)		

時間 外 対 応	(任意)	万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合には、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。				
	なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。					
	※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。					
		対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
	ワークショップ					
	ワークショップ					
	本公演					
	本公演					

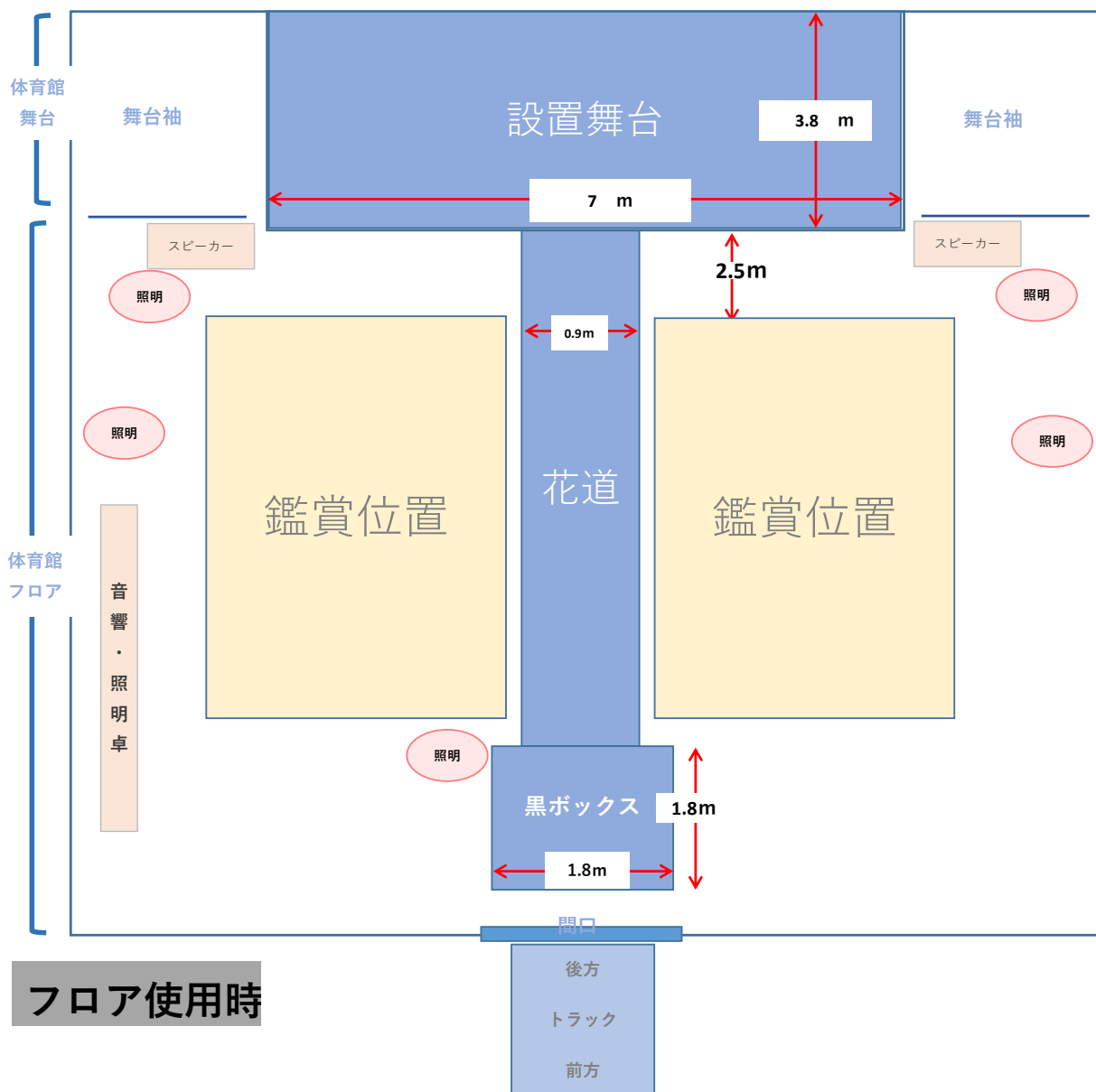
個別 確認 事項	(任意)	上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。	
		個別ヒアリング事項	
	1		
	2		
	3		

(任意)

会場条件について最低限必由条件がある場合、簡易図面を記載してください。

※搬入に関する条件の詳細については、上記の会場条件欄にて確認してください。

会場簡易図面





別添

なし

【公演団体名

劇団ショーマンシップ

】

本事業への応募理由等

本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫

## 【本事業を通じて実現したいこと】

道徳の教材としても馴染みのある「ないた赤おに」を舞台化することによって演劇という舞台芸術が小学生にとって楽しいものであるという認識になることを狙い、歌と踊りで演出し『笑い』『涙』『感動』という舞台の魅力が満載している作品として制作した。その上で「鬼に生まれてきたけど、人間と仲間になって仲良く暮らしていきたい」という想いを持つ『赤おに』が「鬼は乱暴者である」という偏見差別から自由になれず、その願いを叶えるために「友人の『青おに』を失ってしまった悲劇」という視点を丁寧に描いた。本作は「青おに」が単に「親切な友達思いの良い鬼」という表面的なとらえ方で終わることなく、『なぜ青おにが赤おにの為に、悪者になって犠牲になり赤おにの前から消えていかなければならなかったのか』という問題まで踏み込み「無意識の偏見・差別」が生んだ悲劇であることを、しっかりテーマにおいて制作し子ども達に伝え、児童が人との関わり方を考えるきっかけをつくる。本事業のワークショップ、本公演を通じて子どもたちが登場人物の心情に寄り添い、自分自身の生活や人間関係に重ね合わせることで、豊かな想像力と共感力を育むことを実現したい。へき地や特別エリアの子どもたちにも、質の高い舞台芸術を届けることで、文化的格差の解消にも貢献したい。

## 【上記の実現に向けて、実施の工夫】

ワークショップでは、演者が読み聞かせをして、子ども達に自分のイメージを自由に持つことに重きを置いている。そして「鬼の住む森」を書くことで、それを具現化し舞台装置として使用することで、一緒に作った「その学校だけのセット」での公演という参加意識を持つ環境をつくる事ができる。

また、歌と踊り、「与作」「喜作」というコミカルなキャラクターが「笑い」を提供する事で『生で触れる演劇』が面白い！楽しいものであると感じさせる。

『青おに』が『赤おに』の為に村で暴れているところを『赤おに』が止めるシーンをドラマティックに演出するし、エンディングでの『語り』の感情表現でこの作品の悲劇性を感覚的に表現することにより、子どもたちの感性に問いかける。つまり作品の表層は喜劇でありながら深層部分のテーマはわかりやすく答えを出すことなく、それぞれ鑑賞者が考えることで、主体的な学びに繋げる工夫を施した。また、舞台美術をシンプルにしつつも舞台上にあるパネルの組み合わせで三場面作り、限られた学校の体育館でも十分に物語世界を体験できるように工夫した。

事業を適切かつ円滑に実施するための工夫

## 【学校との連絡調整について】

学校側の教育課程や年間行事に配慮し、実施校の担当者との打ち合わせを丁寧に行う。特に、学年別の発達段階や特別支援学級の状況に合わせてプログラムを調整できるよう、事前に教材資料やワークショップの概要を提供する。担当教員との連絡は、専任の制作担当が窓口となり、進行スケジュールや準備物の共有を確実に進行。（基本的には学校側に負担はかけない。）

舞台設営・撤収・進行管理については安全管理も含めて劇団側で責任を持って実施することを伝え、特に初めて実施する学校には事前に安心出来る情報を共有する。

## 【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】

事前の学校側との連絡で学校の意向と状況をしっかり掌握する。ワークショップでは子どもたちの自主性を引き出せるようなファシリテートを努める。

特別支援学校で公演する場合、音の大きさを先生と確認。また、「オニ」を怖いと思う児童もいるので、事前にメイクをした「赤おに」「青おに」役と児童が触れ合う時間を設ける。

## 【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】

本作「ないた赤おに」は、絵本が原作であることをカーテンコールで伝え、原作を読むことによって本作の内容やテーマを継続的に『振り返る』ことを推奨する。又、本事業終了後も、劇団の公式ホームページやSNSでの質問等を受けることも伝え、継続的な学びに繋がるように案内する。

更に、アンケートや感想文を依頼し公演終了後の子供たちの気持ちや学校生活の変化などの内容について書いてもらう事も、その後の学びになると考え、劇団も、その意見を参考に、ワークショップや公演作品の質の向上に繋げていく。

別添	なし
----	----

【公演団体名 劇団ショーマンシップ】

特別エリア区分で事業を実施するに当たっての工夫

①離島・へき地等における公演実績	平成17年度 から公演実績あり。 累計:32公演 (直近) 令和5年度「ないた赤おに」 日田市立津江小学校、えびの市立岡元小学校、延岡市立方財小学校、和泊町立和泊小学校 令和6年度「ないた赤おに」 鹿屋市立高隈小学校、上天草市立維和小学校、延岡市立川島小学校、伊万里市立大川小学校、杵岐市立那賀小学校、奄美市立住用小学校、中種子町立野間小学校
②離島やへき地等の地理的に特殊な事情がある地域で実施する上での工夫や、当該地域、また特別エリア区分の企画に求められる要件を踏まえた上で、一般区分と同様の公演及びワークショップの質を保つための工夫	<b>【特殊な事情がある地域での実施に当たっての工夫】</b>  本作品「ないた赤おに」の舞台装置は主に「置きパネル」を使用している。 仕込み、搬出は早く、最低限の道具での公演が可能なので特殊な事情がある地域でも対応できる。それでも会場の事情や運搬の事情で問題が生じる場合は、「布の書き割り」の使用や、学校に設置されているものを利用しての演出も工夫する。 また、天候、気候も含めて事前に学校側との打ち合わせを綿密に行い、公演及びワークショップをスムーズに実施する。  <b>【質を保つための工夫】</b>  本作品「ないた赤おに」は、これまでも出演者5人とスタッフ1名という編成で約300ステージ上演してきた経験があり、あらゆる環境の中でも対応してきた実績がある。小班編成では削減されることの多い「照明演出」だが、本作は「音響」も「照明」も兼任できるエキスパートが帯同し離島やへき地の子供たちにも「照明演出」が施された舞台を提供する。 また、「日常の学びの場である体育館が劇場になる」感動を実現させるために、大道具等は、「置きパネル」「花道の設置」「両面パネルの利用」等あらゆる手段を駆使して、当劇団の他の作品に全く劣らない視覚効果を実現させる。
③特別エリア区分応募における、費用面の工夫	交通費、運搬費が削減できるように舞台装置をコンパクトに収納できる組み立て式・置きパネルを使用し、移動する。2tトラックに積載出来るよう設計することで、別途運搬業者を手配する必要がなく、且つ巡回公演メンバーが運搬車の運転者となるため(運搬車で移動出来るため)、その分移動費の抑制に繋がる。 音響・照明・舞台監督を一人で行えるエキスパートスタッフが帯同し人件費及び宿泊費等を削減している。 また、ワークショップと公演を同日に行うことにより、交通費・宿泊費を削減出来る。